

分 かる と 快 感 !

# Z会ナビ

▶算数

理科

社会

お 題

## デジタル化することのよさ



生活や産業のさまざまな場面で、情報のデジタル化が進んでいます。デジタル化することのよさとは、どんなことでしょうか。

デジタルの対義語はアナログです。それぞれのよさについて考える前に、デジタルとアナログという言葉の意味を確認しておきましょう。

### 細かくはかれない量

皆さんは、長さや広さ、重さ、かさ、あるいは人数や個数など、いろいろな量をはかったり、数えたりすることがありますね。

ここで、量には大きく分けて二つがあります。

一つは、上であげた長さや広さのように、どんなに細かくはかることもできるものです。たとえば、1cmと2cmの中間の長さを細かくはかりたいときには、1cm40分の1のように、センチメートルの単位を使って表すことができます。さらに、もっと細かくはかりたいければ、ミリメートルの単位を使うことや、0.1mmのような小数を使うこともできますね。

一方、人数や個数、回数のように、そんなに細かくはかれない量もあります。1人よりも多い人数といえば、2人とか3人であり、その中間の1.2人や1.3人という人数は存在しません。

このように、長さや広さのようにいくらでも細かくはかることができる量をアナログな量といい、人数のように単位より細かく数えられない量をデジタルな量といいます。

なお、「1時間あたり1.2人」のような言い方をすることはありますが、これは「人数」という量ではなく、「1時間あたりの人数」という量です(これはアナログな量です)。

### 情報のデジタル化

それでは、情報をデジタル化するというのは、どういうことなのでしょう。

長さや温度を情報として記録する場面のことを考えてみましょう。このときは、身長計や温度計など、自盛りのついた道具を使い、その自盛りを読んで数を記録することが多いはず。ところで、このとき使った道具の自盛りよりも細かくはかることはできませんね。本来、長さや温度はアナログなので、いくらでも細かくはかることができるものです。ところが、それを自盛りを使



イラスト・瑞木匠

ってはかり、数で表すということは、そのとき量がデジタルになってしまうのです。

たとえば、「1cm40分の1」と記録された長さは、おそらく実際には「1cm40分の1ぴったり」ではないでしょう。もっと正確にはかれば、少し長いのもかもしれないし、短いのもかもしれません。しかし、センチメートルの単位ではかると決めたとき、それよりも細かい違いは無視することにしたのです。そして1と40という数で表しました。ここで、デジタル化をしたのです。

デジタル化すれば細かい違いがわからなくなるのですから、不便に思えるかもしれません。しかし、デジタル化には利点も多いのです。

たとえば、2人の身長の違いを調べることを考えましょう。おそらく、身長計で身長をはかって、電卓で引き算をするでしょう。これは、身長というアナログな量をデジタル化して、数の計算で答えを出すという方法です。

もっとも、あえてデジタル化しなくても、2人の身長を比べることなら隣同士に立って見比べればできます。適当な柱などに自印をつけることで、身長を記録として残すこともできます。

しかし、これでは遠方に住んでいる友達と比べたり、全国の平均と比較したりすることはできません。また、柱につけた自印では、年月により木材が伸縮してしまうこともあるでしょう。

身長を「1cm40分の1」という数を使って表すことで、情報が伝えやすくなり、統計処理もできるようになります。また、数で表した記録は、その記録をするときに細かい違いは失われたとしても、それ以上は決して変わることがありません。これが、デジタル化のよさというわけです。

### アナログのよさ

一方、アナログにもよさがあります。その最大のもは、人間が感覚で捉えることができるということです。

皆さんは、表にまとめたデータをもとに、棒グラフや折れ線グラフなどのグラフをかいたことがあるでしょう。なぜ、グラフをかくののでしょうか? それは人数などのデジタルな量であっても、棒の長さや折れ線の点の位置といったアナログな量に直すことで、人間が見比べたり、傾向をとらえたりしやすくなるからです。これは、もとの表に書かれていたデジタルな情報をアナログ化することの利点です。

現代ではコンピューターや情報通信が発達したので、昔ならデジタル化していなかった情報もデジタル化して、共有したり、集計したりすることができます。一方、それを活用する場面では、人間がとらえやすいように再びアナログ化することも多いでしょう。デジタルとアナログ、それぞれのよさを生かすことが大切です。

(Z会・宮坂聡)

! こん かい 今回の ぎょう くん 教訓

デジタル化は特別なことではなく、普段から誰でも行っていることです。

宮坂聡さん 2006年にZ会入社。理数系やプログラミングの教材編集に携わり、現在は高校生向けの数学を担当。長野県諏訪市生まれ。